

新たなること

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構

理事長 丹 治 一 郎



新年最初の財団イベントは、テクノポリス新春講演会です。落成間もない郡山商工会議所新会館で開催した今年の講演会は、講師や講演内容等に加え、会場やその立地もあって、参加者層が例年とは少し異なる中で、6階大ホールが満員となるなど、従来にも増して好評を得ることができました。

そして、新たな年度に入り、平成10年代半ばから続く研究会活動をリニューアルいたします。詳しくは、本誌内容に譲りますが、分野別に健康医療福祉関係と社会基盤の整備・維持面からの地域づくり関係(再エネを含む)、並びに分野横断の新技术や先端技術に関するイノベーションテクノロジー関係とで、合わせて三つのフォーラムとなります。

これらの研究会活動は、日本大学工学部との連携の下で取り組んできているものですが、昨年度までの再エネ・環境共生、医療・福祉機器、機能性材料・製造プロセスの三研究会において長年コーディネータを担ってきていただいた長林先生、尾股先生、西出先生の御三方が揃ってこの3月に後進に道を譲られたことも、リニューアルの契機となりました。

紙面を借りて、三先生の御尽力に対し深く感謝を申し上げます。

新たなフォーラムにおいても、更なる連携に努めながら、皆様の御期待に応えられるようにしてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

また、技術コーディネータ体制を強化します。これまでの常勤コーディネータ二人に、新たに非常勤の技術コーディネータ二人が加わりました。新コーディネータは、いずれも圏域企業に勤務していたことのある電機と化学関係の技術者としての経

験を持つ二人です。財団の課題を理解した上で、心意気で応じてくれました。皆様のところを訪問するなど、新たな出会いから始まり、新たな連携の創出に繋がることに努力していきたいと考えます。

テクノポリスの名は昭和年代のもので、新しいものではありません。当時全国各地に生まれた「テクノポリス」を冠する団体は、合併等を経てその名称を消しており、今やテクノポリスという言葉を残すのは、知り得る範囲では当財団だけとなっているようです。

都合の良い例えともなりますが、古い写真には現在よりも新しく、若いものが被写体となっています。財団設立後の時間は、名称等を世に定着させた期間ですが、逆に古いものを新しく感じさせるものにもなり得ます。

本年度は当財団発足から30年目に当たり、日本大学工学部キャンパス内に場所を借りる郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターは今夏に10年目を迎えます。「日に新たに、日々に新たに、又日に新たなり」の精神を皆様と共有できるような活動等を心がけていきたいと思っております。

水面下にあって、予てよりの懸案である財団出捐金に含まれる国補助相当額の返還問題に関しては、本年度内に何らかの具体的な課題として新たに示されるのではないかと予想されます。激変する環境の中で、財団として果たすべき役割に精一杯努めることで皆様の信頼を得続けることが、財団に限られた対処方策として取り組んでまいりました。さらに気持ちを引き締めてまいり所存であります。

関係各位のなお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

ロハスの工学の歩み



日本大学 工学部長 出村 克宣

1972年のローマクラブのレポート“The Limits to Growth”が人間の諸活動による環境負荷が社会の存続に対して重要な問題を含んでいることを指摘し、1987年発行の国際連合の環境と開発に関する世界委員会第96回会議最終報告書“Our Common Future”が持続可能な開発“sustainable development”という概念を提示した。持続可能とは地球の永続性を指し、人間の諸活動がその永続性を損なわせてはならないことを提唱している。

ロハス“LOHAS”とは、1998年、米国の社会学者ポール・レイ氏と心理学者シェリー・アンダーソン氏が提唱した“Lifestyles of Health and Sustainability”（健康と持続可能な生活様式）をいう。しかし、そのような生活様式は、日本人が持つ自然との共生という概念に通じることから、工学部では1999年、教育・研究のキーワードをロハスとし、それを実現するための工学的アプローチを「ロハスの工学」と称している。

その具現化を目的に、2002年、医療工学研究拠点としての「次世代工学技術研究センター（NEWCAT）」を設置すると共に、心静緑感広場に省エネ型雨水の再資源化システムを導入した。

2003年には、地域における社会環境基盤の保全と防災力向上に関わる研究拠点として、大型風車と太陽光発電施設を併設した「環境保全・共生共同研究センター」を設置し、2006年に竣工した教室棟（70号館）には、省エネ型雨水の再資源化システムと氷蓄熱設備が導入されている。

その後、「ロハスの家研究プロジェクト」をスタートさせ、2009年、自然エネルギーのみで制御される自立共生冷暖房の木の家「ロハスの家1号」、2010年、太陽光のみをエネルギー源とする自立共生健康のガラスの家「ロハスの家2号」、及び自然・循環型バイオガスステーション事業による「メタン発酵装置」、2011年、雨水の有効活用を含む自立共生水自給浄化の木とガラスの家「ロハスの家3号」、及び地下10m程度までの地中熱を効率的に利用する研究拠点「浅部地中熱センター」を設置して研究を進めている。

2012年には、『〈ロハスの工学〉研究プロジェクト』が文部科学省の「私立大学戦略的基盤形成支援事業」及び「地域イノベーション戦略支援プログラム」に採択された。又、同年、「ロハスの工学シンポジウム」をスタートさせると共に、「ふるさと創生支援センター」及び「地域イノベーション（復興）プログラム推進室」を設置し、除染技術や再生可能エネルギー技術などに関する研究プロジェクトを展開している。

2013年には、医療工学研究を基盤とした教育プログラムとして「臨床工学技士課程」を設置した。又、同年、産学官連携で開発した「高齢者向け次世代電動カー」の発表に至っている。

2014年には、諸活動を通じての工学技術支援を目指した大玉村及び本宮市との連携協定（それぞれ、3月及び9月）を締結している。又、郡山市との連携協定（11月）、葛尾村との共同研究契約（2015年1月）のもと、NEDOの採択事業である「浅部地中熱利用システムに関する研究」が郡山市湖南町の旧赤津小学校施設、葛尾村みどりの里でスタートし、産総研福島再生可能エネルギー研究所とも連携して研究活動が展開されている。

同年、バイオメディカル工学に関する研究課題が「私立大学戦略的基盤形成支援事業」に採択され、医工連携を基盤にした様々な研究プロジェクトが展開されている。更に、持続可能なインフラによる地域コミュニティの形成を目指した「ロハスの花壇プロジェクト」や「ロハスの橋プロジェクト」もスタートした。

又、これまで、2011年度日本機械学会賞「教育賞：ロハス工学とロハスの家」（2012年4月）、第30回福島県建築文化賞「復興賞：ロハスの家群」（2014年2月）などを受賞している。

ロハスの工学に立脚した一連の教育・研究活動は、『心身ともに健康な“ひと”』、『自立共生の“家”』、『活力のある“地域社会”』、『安全・安心な“インフラ”』、『美しい“自然”と豊かな“環境”』の実現を目指すもので、教職員一丸となってその活動に携わっている。

平成27年 テクノポリス新春講演会

「これからのモノづくり中小企業が生きる道」 ～生き残りの道はここにある～

開催日 平成27年1月21日(水)
場所 郡山商工会議所 6階ホール
参加 約130名

主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
共催 郡山地域テクノポリス市町村協議会/郡山地域テクノポリス推進協議会
 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

今年のテクノポリス新春講演会は、神戸国際大学経済学部 教授 中村 智彦氏を講師にお迎えし、「これからのモノづくり中小企業が生きる道」～生き残りの道はここにある～と題してお話いただきました。

中村教授の専門は中小企業論と地域経済論で、現地での調査・研究を重視し、中小企業間のネットワーク構築や地域経済振興のプロジェクトにも数多く参画しており、日本テレビ「世界一受けたい授業」の人気講師でもあります。

講演では、日本のモノづくりについて、「より良い物をより安く」という考えから脱却し、「より良い物をより高く」という意識を持つ必要があると主張、その上で、「努力して良い物を作り、誇りを持って高い物売っていくべき」と主張しました。参加者は約130名で多くは中小企業の経営者・幹部の方々でしたが、皆さん熱心に聴講されており、大変好評でした。



講師

神戸国際大学経済学部 教授 中村智彦氏

プロフィール

- 1964年東京都生まれ。1996年名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程修了。
- 大阪府立産業開発研究所などを経て現職。専門は中小企業論と地域経済論。
- 現在、中部経済産業局農工商等連携事業評価委員、近畿地方整備局事業評価委員、日本テレビ「世界一受けたい授業」工場見学担当講師などのほか、『石川県中央会々報』(石川県中小企業団体中央会)、『ニュートップL』(経営者会報)、『日本実業出版社』などに連載記事を執筆している。
- 現在、京都機械金属中小企業青年連絡会顧問を務める。

講演内容

- モノづくりは面白い
- 中小企業の生き残りとは
- モノづくり企業の強みと弱み
- 変化するのではなく変化が加速する
- 固定概念からの脱却



講師講演風景



平成27年 テクノポリス新春講演会 講演風景

サイエンスツアー(くらしの工学を学ぼう)

東日本大震災から4年が経過し、震災からの復興を図るべく、郡山地域には平成26年4月に国立研究開発法人 産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所(FREA)が開所され、平成27年度には福島県環境創造センターの一部施設が供用開始され、平成28年度には福島県医療機器開発・安全性評価センター(仮称)が開所されるなど先進的研究・学術研究機関の集積が急速に進んでおります。

郡山地域には、以前から、日本大学工学部等を始めとする高等教育機関や福島県の工業振興を図る公設試験研究機関である福島県ハイテクプラザのほか、明治政府により整備され、現在の郡山地域(安積開拓)の基礎を築き日本の三大疏水の一つである安積疏水など、郡山地域の近代化を今に伝える産業遺産も数多く点在しております。

また、郡山地域には医療関連産業等の集積も急速に進んでおり、数多くの優良企業が全国から多数進出しております。

当財団では、これらの資源を貴重な地域資源と捉え、郡山地域の魅力向上に活用するとともに、関係機関や大型観光キャンペーン「ふくしま destinations キャンペーン」とも連携し、郡山地域の産業観光振興に寄与する『サイエンスツアー』を平成26年度から実施しております。

平成26年度 開催概要

開催内容

福島再生可能エネルギー研究所(FREA)、日本大学工学部、郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター等を研修

開催件数

6件(主催1件、後援1件、共催4件)



日本大学工学部にて



日本大学工学部(ロハスの家)にて



インキュベーションセンターにて

第15回 産・学・官連携フォーラム

開催日 平成26年11月27日(木)

場所 日本大学工学部50周年記念館(ハットNE)大講堂

参加 約200名

主催 日本大学工学部工学研究所

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会



主催者
挨拶

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構理事長
郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業
推進協議会 会長
丹治一郎



主催者
挨拶

日本大学工学部長
日本大学大学院 工学研究科長
日本大学工学部 工学研究所長
出村克宣 氏

第15回産・学・官連携フォーラムは、日本大学工学部を会場に行われました。

福島県では東日本大震災以降、地震・津波による被災地の復旧・復興、原子力発電所事故に伴う避難者の住居の安定確保、除染や放射性廃棄物処理など、これまでに経験したことのない大変厳しい多くの難題に取り組んでいます。加えて、橋やトンネルといった公共的インフラの一斉老朽化が深刻化する中、今後その長寿命化を進める必要性にも迫られています。

この様な取り組みに当たっては、「土木工学」に立脚した技術を駆使することが不可欠です。また、脱原発、再生可能エネルギー100%の先駆けの地を目指す福島県では、従来のインフラ整備に加え、エネルギー自立や自然との共生に配慮したロハスのまちづくり、それぞれの地域のあり方に配慮したビジョンとこれらに基づく新たなビジネスモデルの構築が求められています。

今回のフォーラムでは『ふくしま発 地域に根差したインフラ&環境ビジネスモデルの創生を目指して』と題し、基調講演で鈴木武男県土木部技監が本県の復興に向けた取り組みについて講話し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故によるインフラの被害状況、震災時の初期対応やこれからの復興に向けた5つの復興重点施策の取り組み状況などについて解説しました。

また、伊藤泰夫富士電機(株)発電・社会インフラ事業本部スマートコミュニティ総合技術部長と、中野和典日本大学工学部土木工学科准教授が、地域に根差したインフラ整備の在り方、再生可能エネルギーを取り入れたまちづくりのモデルや先行事例、持続可能な社会を構築するために欠かすことができない水(自然資源)・食(農作物)・エネルギー資源の自給自足などの重要性について説明がありました。

引き続き、パネルディスカッションでは、講師の方々とフォーラム参加者を交えながら活発な意見交換が行われました。



フォーラム会場の様子



基調講演

基調講演

テーマ **福島県の復興に向けた取組**



講師: 福島県土木部
技監 鈴木武男 氏

話題提供

テーマ **企業から見たスマートコミュニティの動向と課題**



講師: 富士電機株式会社
発電・社会インフラ事業本部
スマートコミュニティ総合技術部長
主査 伊藤泰夫 氏

テーマ **遠い水・食・エネルギーの暮らしから、近い水・食・エネルギーの暮らしへ**



講師: 日本大学工学部
土木工学科
准教授 中野和典 氏

パネルディスカッション

座長

• 日本大学工学部 土木工学科
教授 岩城一郎 氏

パネリスト

• 福島県土木部 技監 鈴木武男 氏
• 富士電機株式会社
発電・社会インフラ事業本部
スマートコミュニティ総合技術部長
主査 伊藤泰夫 氏
• 日本大学工学部土木工学科
准教授 中野和典 氏



RIA:地域間産業交流支援事業の報告 「福島県 郡山地域」と「韓国 江原道 原州地域」との医療福祉関連機器開発プロジェクトの推進

事業実施主体 【日本側】 公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構
 【韓国側】 財団法人 原州医療機器テクノバレー

実施日 平成26年4月1日～平成27年3月31日

実施場所 日本: 福島県 郡山地域、 韓国: 江原道 原州地域



建設が急ピッチで進む原州の企業都市「MediPolis」【医療関連産業の集積新都市(160万坪)】

■「(公財)郡山地域テクノポリス推進機構」は、平成21年(2009年)11月に韓国 江原道 原州にある「(財)原州医療機器テクノバレー」との間で『医療福祉機器開発相互協力協定』を締結して以来、JETROの中小企業向け産業交流支援事業の一つである「RIT(Regional Industry Tie-up program):地域間産業交流支援事業」による支援のもと、事業実施主体である当機構と原州医療機器テクノバレーとの連携を通して、「郡山地域テクノポリス圏域及び近隣産業集積地の中小企業群」と「韓国 江原道 原州地域の医療機器産業クラスター」が、医療福祉関連機器の共同研究開発や商品化・市場化を目的に、日韓双方の企業で技術協力の交流を実施し、相互の企業視察や展示会参加による商談の促進などを通して、両地域の産業振興と社会発展を念頭に、医療福祉関連機器創出の分野に力点を置いた多角的な産業交流支援活動を行っています。

■韓国江原道原州市は官民一体となって、大胆に産業再編を推進し、世界的な「複合都市」モデルの形成を目指しており、自ら地域開発の根幹を安全都市/企業都市/革新都市機能を含む『健康都市』と位置付け、国家開発計画の方針と共に、「財団法人原州医療機器テクノバレー」は、原州市のKTL:韓国産業技術試験院や延世大学校延世医療工学研究院等の研究機関等との連携のもと、研究開発支援、起業化・創業化・販路拡大支援、先端技術開発支援等を行い、更に医療機器専用工業団地の整備を実施して、医療機器産業の誘致、支援を強化し、医療機器産業の集積を促進しています。

■平成24年度末にはJETROのRIT支援事業を終え、25年度(2013年)からは 郡山と原州の両地域の協力で「RIA(Regional Industry Alliance program)」として新たな船出をして、医療福祉機器開発に係る技術開発協議や啓発セミナー/シンポジウムを開催し、医療福祉機器関連の展示会への出展や商談会等に臨みました。また24年度に行った「日韓共同医療機器開発プロジェクト基本調査」事業を成就すべく、25年度(2014年)より「日韓共同で新たな医療機器開発プロジェクトを立ち上げる為の具現的な調査」を促進しながら、両地域の企業と医療施設ブレインの共同参加に配慮した日韓共同医療Project構築の為のMaster Planを作成中です。医療福祉機器関連産業創出のために更なる地域間連携を強め、郡山と原州の両地域の企業支援機構である【「テクノポリス」と「テクノバレー」】は、相互の産業振興、地域発展に努力しています。

平成26年度の主な推進事業

■**2014年7月:** (公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部の共同開催による平成26年度「第1回 医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」に「(財)原州医療機器テクノバレー」と「延世大学校延世医療工学研究院」を招聘し、『アジア医療機器産業のハブ～Wing of Asia:原州医療機器産業クラスターの紹介』と題して、企業の技術開発状況と江原道の産業紹介や原州の医療福祉関連機器開発計画についてシンポジウム及び技術相談を実施して行きました。

■**2014年9月:** 原州で開催された「第9回 江原医療機器展示会 GMES2014」に郡山地域の医療福祉機器関連企業4社【ひさき設計株式会社(リハビリゴールと携帯型放射線量測定器)、株式会社エヌジェイアイ(睡眠モニター)、有限会社エスク(循環器外科用ステント類)】と1大学研究室:日本大学工学部 長尾研究室(整形外科用神経伝導計測装置)が出展し、技術協議や商談を展開、共同開発事業が促進された。またこの展示会に同行した郡山市産業観光部産業創出課は原州の医療機器専用工業団地の一つである「東華先端医療機器工業団地」と「企業都市(MediPolis)

160万坪」を、また、前年9月5日に新たに竣工し、企業都市の中心に在る医療機器開発ハブの企業支援機構としてOne-stop Service Systemを導入した(財)原州医療機器テクノバレーが、その事業推進拠点としている「MCC:原州医療機器総合支援センター」と「革新都市(Innovation City)130万坪」を視察しました。

■**2014年10月:** 郡山で開催された「第10回 医療機器設計・製造展示会&最新技術セミナー:メティカルクリエーションふくしま2014」に原州医療機器産業クラスターの医療福祉機器生産企業4社【株式会社IM Healthcare、GTM株式会社、RAEANNEX株式会社、EZGAM株式会社】と(財)原州医療機器テクノバレーが訪日し、同展示会に出展、技術相談や商談を展開しました。

■**RIT/RIA** 地域間産業交流支援事業の実施を通し、これまで得られた成果として、原州と郡山 両地域の企業間で行った商談件数は、累計で82件、企業間で「技術開発協定」を取り交わした企業等が7件、協定成約見込み企業件数が25件となっています。これらの企業は現在、技術協力内容につき交渉中のものや製品の完成化に向け事業促進中の企業があります。



医療福祉機器開発相互協力協定調印式(2009年11月)



GMES【江原医療機器展示会】2013参加 原州市庁を表敬訪問



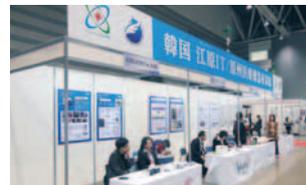
原州医療機器産業群を支える多様な研究開発支援機関



GMES【江原医療機器展示会】2014参加【ひさき設計株式会社】



GMES【江原医療機器展示会】2014参加【株式会社エヌジェイアイ】



メティカルクリエーションふくしま2014参加【原州医療機器産業クラスター】

福島県再生可能エネルギー一次世代技術開発事業の報告

・応募テーマ:再生可能エネルギー利用次世代型農業施設開発 ・計画名:農業施設用ハイブリッド再エネ利用システムの実用化

事業の形態 補助事業

事業実施主体 申請者:公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構

連携先:株式会社内藤工業所、株式会社リゾーム、エスケー電子工業株式会社、株式会社スズキ製作所

技術支援: 日本大学

事業支援体 福島県商工労働部産業創出課

事業期間 平成25年度～平成27年度

実施期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

(平成26年度)

施設の建設場所 岩瀬牧場内(福島県岩瀬郡鏡石町桜町225)

福島県再生可能エネルギー一次世代技術開発事業概要

福島県は、復興計画の柱に再生可能エネルギーの推進を掲げ、「ふくしまからはじめよう。」のスローガンの下、新たに県内企業などによる次世代技術開発を支援すること等により、日本、さらには世界を先導する「福島発」の再生可能エネルギー技術の産業創出を目指すものです。

平成26年度は、太陽光発電を活用した地中熱システムによるハイブリッド温室と比較用の一般温室の性能測定を行うとともに、蓄電池システムを導入して、再エネによる自立度の測定などを実施しました。

- 平成26年5月、ハイブリッド温室の性能確認の一環としてトマトの実験栽培を開始しました。
- 7月、地元の生産者(6名)と連携企業・日大と交流会を現地で開催し、実験施設の説明等を行いました。当日は資源エネルギー庁からも2名が参加しました。
- 同月、夏期におけるハイブリッド温室の断熱・遮熱効果と通風・換気効果について、一般温室との比較実験を行いました。
- 8月、ハイブリッド温室でヒートポンプの冷房能力の実証実験を開始しました。
- 10月、現地に岩瀬農業高校の先生方12名を招き、地中熱の利用とハイブリッド温室の説明等を行いました。
- 11月、ハイブリッド温室・一般温室の暖房実験を開始しました。地中熱システムの効率的な運用を追究しながら、灯油ボイラー利用の一般温室とのランニングコストの比較評価を開始しました。

- 平成27年1月、ハイブリッド温室に蓄電池を付設し、太陽光発電による夜間の電力供給の自立度を測定しました。

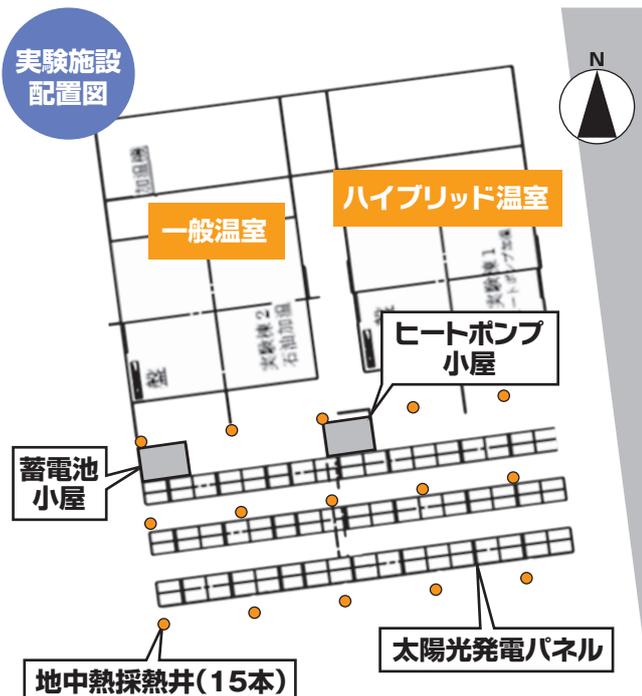
- 上記のほか年間を通じて、ハイブリッド温室において、天窓や通風・遮光・保温の各カーテンと地中熱システムの動作を統合して制御できるシステムの開発を進めました。

平成27年度も研究開発を継続実施する予定です。

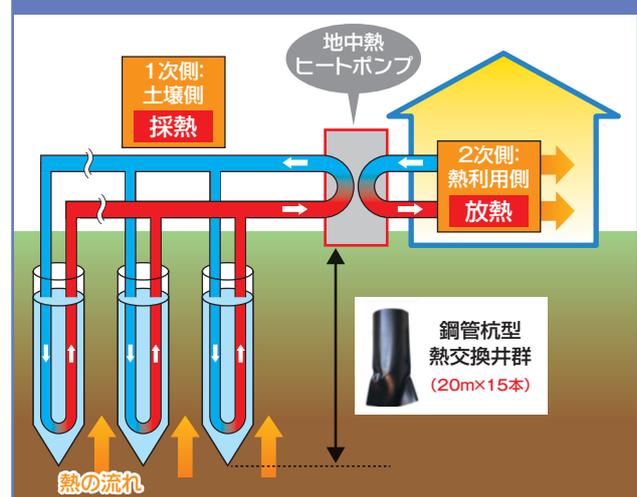
再生可能エネルギー実験施設



実験施設配置図



地中熱システム構成図



Meister's College 2014 (マイスターズ・カレッジ2014)

人材育成事業

人材育成事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、ものづくり中小企業の中核となる技術者を対象に、日本大学工学部、福島県立テクノアカデミー郡山等との産学連携により、基盤的製造技術の高度化を図る人材育成事業として、平成18年度から継続開催している「Meister's College」(マイスターズ・カレッジ)を実施しました。

今年度は、ものづくり製造技術等に関する多様なイノベーション技術・知識の習得、大学の持つ革新的な研究分野の紹介・技術シーズの提供などを目的とした「イノベーションマスターコース」、マシニングセンタのプログラミングや加工技術を習得する「マシニングセンタコース」の2コースを設け実施しました。



開講の様子(両コース合同開催)

	イノベーションマスターコース	マシニングセンタコース
受講対象者	製造業企業の技術者等	製造業企業の技術者等
受講者数	13名	12名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり製造技術等に関する多様なイノベーション技術・知識の習得 大学の持つ革新的な研究分野の紹介、技術シーズの提供等 座学と実技が密接にリンクした実践的な研修 	<ul style="list-style-type: none"> マシニングセンタのプログラミング及び加工技術等の習得(使用するマシニングセンタは、(株)森精機製作所製) マシニングセンタに係るプログラム(3次元CAD/CAM)の入門編 マシニングセンタに係る工具(刃物)の知識
構成	<ul style="list-style-type: none"> ◆開講式及び基調講演 ◆座学研修 4.5時間(1.5時間×3回) ◆実技研修 18時間(2.0時間×9回) ◆工場見学会 ◆閉講式及び交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ◆開講式及び基調講演 ◆3次元CAD/CAM □プログラミング……15時間(3時間×5回) □マシニング操作……2時間(2時間×1回) ◆工具(刃物)の知識……6時間(2時間×3回) ◆工場見学会 ◆閉講式及び交流会
研修期間	平成26年10月9日～11月27日 毎週火曜日・木曜日 午後6時30分～	平成26年10月9日～11月27日 毎週水曜日・金曜日 午後6時～
研修場所	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 日本大学工学部	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 福島県立テクノアカデミー郡山
講師	日本大学工学部担当教員 4名	福島県立テクノアカデミー郡山教務員 2名/民間企業 5名

イノベーションマスターコース

「イノベーションマスターコース」は、日本大学工学部の担当教員を講師に迎え、期間中の延べ15日間にわたり『データ処理講座』『3Dプリント講座』『ロボット講座』の3つのテーマについて、基礎から専門的分野までの多様な知識と要素技術の研修を行いました。

『データ処理講座』では、プログラミングの経験の無い方でも、グラフィカル開発システムLab VIEWを用いて、周波数や音声の解析などブロックダイアグラムを生成することにより、基本的なデータ解析処理ができることを学びました。また、各受講者のアシスタントとして学生さんにサポートしていただき、楽しく、スムーズな講座運営をすることができました。

『3Dプリント講座』では、現在注目を浴びている3Dプリンタの原理や構造、メーカーごとの製品シェアと特長などについて詳しく説明していただきました。特に実習では、3D-CADソフトの基

本操作方法を学んだあと、受講生がCADを使用し小物のモデリング実習を行うと共に、受講生自身の胸像を3Dスキャナーを用いて計測し、それらのデータを元に粉末積層法(石膏)の3Dプリンタで胸像などの製作に取り組みました。

『ロボット講座』では、ロボット技術における機械制御について学びました。ロボットの処理系(計測→運動生成→動作→計測)や動作制御の種類について分かり易く説明していただきました。また、実習の最終日には、今まで学んだ制御方法(プログラム作成)を使ってロボットを動かすため、受講生が「ビュートローバーARM」のキットの組み立てを行い、プログラム通りの動作確認の実験を楽しみながら行いました。

受講者アンケートでは、「堅苦しくなく楽しく参加できました」「座学・実習ともに充実した時間で勉強になりました」などの声が寄せられました。

①データ処理講座	座学	実習
やさしく理解する科学計測のためのデータ処理 Lab VIEWを用いた実践的データ処理 電気電子工学科 生体生理工学研究室 村山 嘉延 氏		
②電気電子工学科	座学	実習
3Dプリントの概要と将来展望 3DプリントとCAD演習 情報工学科 生産システム工学研究室 小林 義和 氏		
③ロボット講座	座学	実習
ロボット工学を応用した機械制御に関する技術 機械工学科 サステナブルシステムデザイン研究室 遠藤 央 氏		
工場見学会・閉講式・交流会 「マシニングセンタコース」と 合同で実施		



データ処理講座(座学)



データ処理講座
(グラフィカル開発システム
LabVIEW実習)



3Dプリント講座(座学)



3Dプリント講座
(CADモデリング実習)



ロボット講座
(制御プログラム実習)



ロボット講座
(ビュートローバーキット完成)



3Dプリント講座
(胸像作成実習)



3Dプリント講座
(実習完成品)

マシニングセンタコース

3次元CAD/CAMによるプログラミング

福島県立テクノアカデミー郡山 精密機械工学科
副教務主任 花見 敬士
副教務主任 成瀬 哲也

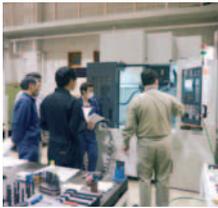
マシニング操作(Aコース)
マシニング操作(Bコース)

福島県立テクノアカデミー郡山 精密機械工学科
副教務主任 花見 敬士
副教務主任 成瀬 哲也

工具(刃物)の知識①	三菱マテリアル株式会社
工具(刃物)の知識②	株式会社イマオ コーポレーション
工具(刃物)の知識③	京セラ株式会社



プログラミング



実機操作



工具刃物の知識

工場見学会・閉講式・交流会

「イノベーションマスターコース」と
合同で実施



工場見学会の様子 ルーベィ工業㈱(会津美里町)



閉講式の様子(両コース合同)



交流会の様子(両コース合同)

「マシニングセンタコース」は、福島県立テクノアカデミー郡山の先生方と民間企業の方々に講師を迎え、期間中の延べ12日間(開講式、工場見学・閉講式含む)にわたり、研修を行いました。



講座による成果品

まず、15時間(5日間)のカリキュラムにて、マシニングセンタに関する3次元CAD/CAMについて説明を受けた後、実際にソフトウェアを使ってプログラミングを行いました。

その後、受講生を2グループに分けた少数精鋭により先に組んだプログラムを基に、2時間の実機操作を体験しました。

最後に、民間企業の方々に講師に招き、マシニングセンタで使用する工具(刃物)の使用方法や段取り操作改善の手法などについて、実習を交えて学習しました。

受講者アンケートでは、「3次元CAD/CAMのプログラムの基礎が理解できた」「工具のドリルについて多様な知識を習得できて良かった」などの声が寄せられました。

ちびっ子マイスターズ・カレッジ
「子どもが描く将来のまちなみ」

開催日 平成26年7月26日(土)

場所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

参加 親子19組36名

主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構/日本大学工学部

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、日本大学工学部と連携し、小・中学生を対象に「ものづくり」への理解を深めることを目的とした子ども向け事業「ちびっ子マイスターズ・カレッジ」を開催しています。

今回は、小学生の夏休みを利用した親子参加型の体験教室で、講師に日本大学工学部建築学科准教授の浦部智義氏をお迎えし、午前中は「建築」や「デザイン」とおした『ものづくり』について講義いただき、その後、日本大学大学院工学研究科の大学院生と学部生さんのサポートを受け、「自分たちだけの家」をテーマに親子工作を行いました。

昼食は、日本大学工学部敷地内にある情報研究棟8階のスカイレストランで、郡山市内中心部を眺めながら、大学生気分を満喫しました。

午後からは、引き続き親子工作を続ける方と、環境に優しい「ロハス」の家を見学する方にわかれ、「ロハスの家」を見学した方は、太陽光や地中熱を利用した「ロハスの家」を熱心に見学していました。

親子で作品を完成後、「まちなみ」にすると、ちびっ子たちは真剣な眼差しで食い入るように「自分たちの作品」や「まちなみ」

を見つめている様子が非常に印象的でした。

当財団では、今後も、小・中学生向けの企画を実施する予定です。



浦部准教授による講義



工作の様子



完成作品



記念撮影

郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 入居企業成果発表会

開催日 平成26年12月12日(金) 13:30~16:30

場所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

参加 約60名

主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構

成果発表企業 入居企業9社によるプレゼンテーション

入居企業10社による研究成果品紹介

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、「郡山地域ものづくりインキュベーションセンター」入居企業の研究成果を広く周知するとともに起業化・事業化を支援するため、「入居企業成果発表会」を開催し、現在入居中の企業9社が約7分間のプレゼンテーションを行い、それぞれの研究成果、技術の特長、技術の有効性などを発表しました。

プレゼンテーション終了後、各企業の展示ブースで、パネルや製品等を用いて自社の研究成果を来場者に説明し、来場者は入居企業の研究成果に理解を深めていました。各ブースには金融機関の方々も多く訪れ、「販路開拓」「ビジネスマッチング」に向けた商談が積極的に進められました。

各展示ブースでの研究成果展示品の紹介後、今回初めての取り組みとして、来場者と入居企業の皆様による「交流会」を実施し、研究成果に関する情報交換や入居企業同士の交流を図りました。

当財団では今後とも、積極的に入居企業を支援して参ります。



来賓挨拶(日本大学工学部 岩城教授)



プレゼンテーション①



プレゼンテーション②



研究成果品紹介①



研究成果品紹介②



交流会

成果発表企業一覧

支援室No	名称	本社所在地	業種等	研究開発テーマ
入居企業プレゼンテーション・研究成果品紹介				
1.2	エコポンド環境工学リサーチ株式会社	郡山市	放射能除染業	・「イーコン・ポリイオン工法」及び放射能除染やため池の底質除染の効率化
3	福島再生可能エネルギー株式会社	郡山市	環境・エネルギー関連技術開発事業	・半炭化装置の開発 ・マイクロ水力発電機の開発
4	株式会社あおい	須賀川市	総合建設業/土木	・地下水を利用した融雪舗装技術の研究・開発
5	PSP株式会社	東京都	情報サービス業	・遠隔画像診断支援コンピューターシステムの開発
6	株式会社ニチオン	千葉県	医療機器製造・販売業	・次世代内視鏡外科手術用鉗子の開発 ・内視鏡用洗浄機の開発
7	オフト産業株式会社	東京都	工業デザイン	・リチウムイオン蓄電システム用寒冷地対応の筐体の開発
8	株式会社テレジャパン	郡山市	クラウドサービス・通信機器の企画・開発	・メッシュセンサーネットワーク等の研究・開発
9	オバナヤ・セメントテックス株式会社	愛知県	石灰石砕砂、建築用補修資材の製造・販売業	・鉄筋コンクリート長寿命化補修材料・工法の開発
11	株式会社メティファム	郡山市	動物用医薬品・ヒト用健康サプリメントの開発調査	・メカブを原料としたヒト用健康サプリメントの開発
研究成果品のみ紹介				
10	office EDR-K	郡山市	設計開発・開発支援業務	・業務用途(防災無線)高周波部品の開発

郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議 総会及び全体会・交流会

研究会活動報告

開催日 平成26年6月17日(火)／平成26年8月21日(木)
場所 ホテルハマツ／郡山ビューホテルアネックス

参加 23名／23名
主催 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議

戦略的アライアンス形成会議は、郡山テクノポリス地域などの中小製造業者が保有する技術力、設備、営業力等の潜在能力を戦略的に活用する組織(アライアンス)を構築することによって、高度な研究開発、新しい受発注及び各種産業振興支援施策の担い手となり、地域産業の活性化を図ることを目的としています。

平成27年3月末現在、47社が参画しています。



役員会



総会

当形成会議では、平成26年8月21日に郡山ビューホテルアネックスにおいて、会員企業相互の情報交換の場として、アライアンス全体会・交流会を開催しました。

今回は、平成25年度から福島県地域産業復興支援アドバイザーに就任され、特に中小企業との連携により60件以上の新製品開発と事業化を行ってきたドクターホッキーこと堀切川一男東北大学教授を講師に招き「課題解決・新商品開発セミナー」を開催しました。

中小企業において、過去にあきらめた研究開発の失敗事例から課題を抽出し、解決策に至るまでの方法を企業と大学が連携して取り組み、最終的に商品化までこぎつけた成功事例や、震災復興のための活動など、大変興味深いお話を伺うことができました。

また、セミナー終了後、会員企業相互の意見・情報交換の場と講師の先生との交流を深めるため、企業全体交流会も併せて開催しました。

さらにセミナーの翌日は、商品化へ向けた第1歩として、先生が得意としている実際の現場での企業御用聞きとして、郡山地域の企業を訪問しました。

事業方針

- 1 会員企業相互の強みを生かしたアライアンス(連携、協調)を強化することにより、新たに付加価値の創出を図るなど、技術力の向上と産業振興を目指す。
- 2 会員企業の技術連携を図り、高度技術や複合技術を必要とする難度の高い特注品・試作品・完成品等を含む受注の確保を目指す。
- 3 会員企業の情報交換により、新製品・新商品の開発、ソフトウェアの開発、販売戦略などの成果実現を目指し、新事業の創出と活性化を図る。
- 4 会員企業のアライアンス活動を通して、地域にアライアンス形成会議の知名度アップを図る。

当形成会議への入会は随時受け付けています。詳しくは、テクノポリス推進機構事務局までお問い合わせください。

●平成27年度 役員、委員、監査

(敬称略)

最高顧問	高木茂保	エスケー電子工業(株)	取締役相談役
会長	内藤清吾	(株)内藤工業所	代表取締役社長
副会長	林 明博	林精器製造(株)	代表取締役社長
委員	吉田俊夫	(株)古城光科学	代表取締役会長
委員	谷島 昇	(株)コスモテック	代表取締役
委員	水上哲夫	(有)ばすわーど	代表取締役
委員	桑原久男	(株)リゾーム	代表取締役
委員	神田雅彦	神田産業(株)	代表取締役
委員	森尾和衛	日本全業工業(株)	常務取締役
委員	吉田慶太	ひさき設計(株)	代表取締役
監査	吾妻柄穂	日ノ出工機(株)	代表取締役
監査	遠藤正成	(株)北斗型枠製作所	代表取締役社長



セミナーの様子

課題解決・新商品開発セミナー



テーマ 被災地域産業の早期復興を促す地域産学官連携スタイル
『福島堀切川モデル』の確立を目指した取り組み

講師 福島県地域産業復興支援アドバイザー
東北大学大学院工学研究所 教授 堀切川一男 氏

プロフィール

昭和59年 東北大学大学院工学研究科博士課程修了。東北大学助手、講師、助教授、山形大学助教授を経て、平成13年より東北大学教授。工学博士。専門はトライボロジー(摩擦・摩耗・潤滑に関する研究)。平成16年度より仙台地域連携フェローにて活躍中。平成19年 第5回産学官連携功労者表彰「科学技術政策担当大臣賞」受賞。平成25年度より福島県地域産業復興支援アドバイザー就任。

郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンターだより

新事業創出育成事業



当財団では、国、福島県、郡山市、日本大学工学部等の助成を受け、平成18年8月に「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」を日本大学工学部キャンパス内に建設し、その管理・運営を行っています。

同センターは、ものづくりによる新たな産業の創出を促進するための支援施設で、企業等の入居スペースのほか、研究開発による試作品を製作するための工作機械を備えた東北初の試作センターや40人収容可能な会議室を併設しています。

また、研究開発・事業化支援のための専門家を配置し、様々なサポートをハード・ソフトの両面から提供するとともに、郡山地域を中心とした大学等の知的財産や産業支援ネットワークを活用し、入居企業等の要望に応じて、技術シーズの事業化を支援しています。

さらに、入居企業の研究成果を広く周知するために、「成果発表会」の開催やセンター内の「展示コーナー」に、成果品の展示など、PRの機会を提供しています。

支援メニュー

新製品の研究開発による新事業創出の成功確率を高めるため、研究開発の指導者がいる大学の敷地内に、試作品を設計・製作する《場》、試作のための基本的な《設備》、経営・技術両面での支援のための《人材》、そして、研究開発成果を広く発表する《機会》を提供します。



起業支援室(実験室タイプ)



起業支援室(事務室タイプ)



試作センター



展示コーナー

場 日本大学工学部キャンパス内に新製品の研究開発拠点として、低廉な料金で入居可能な**起業支援室**(11室)を提供。(24時間365日利用可)

設備 試作品の製作に必要な各種工作機器を備えた**試作センター**を併設。(高精度立体加工用マシニングセンター等を設置)

- 人材**
- **インキュベーションマネージャー**による経営・技術両面でのアドバイスや各分野の専門家・支援機関などの紹介。
 - **技術コーディネーター**による研究開発・起業化の助成支援、各分野の研究会開催、大学・公設試験研究機関等の研究者との連携。郡山テクノポリス圏域企業によるアライアンス(企業連携)形成への参加等。

機会 入居企業の研究開発成果をマスコミや関係者に広く周知し、起業化・事業化を支援するための**成果発表会**やセンター内の**展示コーナー**への成果品展示などの機会を提供。

展示コーナーのご案内

インキュベーションセンター内の1階にある「展示コーナー」に当センター・支援室を卒業した企業等の研究成果品を展示しておりますので、ぜひご覧ください。

医療針状把持鉗子	(株)ニチオン
睡眠センサー	(株)テレジャパン
かため太郎 〈一液湿気硬化型工ボキシ樹脂系簡易補修材〉	オハナヤ・セメントックス(株)(卒業企業)
メカピューティー 〈メカプ(和布兼)サブリメントの錠剤化〉	(株)メティファム(卒業企業)
生キャラメル	(株)向山製作所(卒業企業)
乳がんチェッカー	(株)タウザー研究所(卒業企業)
聴覚感度ヘッドホーン	(株)タウザー研究所(卒業企業)
バスケットワイヤーカテーテル	(株)ウールファイン(卒業企業)
最小侵襲手術用鉗子	(株)フツロ(卒業企業)
ハニリアル材二段ベット〈強化段ボール材〉 個人用ダンボール防音室「だんぼっち」	神田産業(株)(卒業企業)

NUBIC(日本大学産官学連携知財センター) 郡山サテライトの開設

研究開発・事業化コーディネート事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学の連携により、郡山地域における知的財産・産学官連携活動を活性化し、日本大学及び企業間の共同研究、技術移転等を通じて地域産業の発展・推進に寄与するため、「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」内にNUBIC郡山サテライトを平成19年7月から開設し、地域企業の皆様の技術開発等に係る相談に応じています。
(平成26年度実績:28件)



サテライト技術相談

平成27年度 相談予定日
5月27日(水)
6月24日(水)
7月22日(水)
8月26日(水)
9月30日(水)
10月21日(水)
11月25日(水)
12月16日(水)
1月27日(水)
2月24日(水)
3月23日(水)

また、平成20年度から、当財団とNUBICのコーディネーターが直接企業を訪問しシーズを紹介する「出前セミナー in 企業」も開催しています。

(平成26年度実績:1件)



出前セミナー in 企業

- 主な相談内容**
- 日本大学に属する研究者、研究シーズ、知的財産等の紹介、共同研究、技術指導等の斡旋
 - 知的財産制度、その運用等に関する情報提供
 - 研究開発支援制度、産学連携支援制度等の紹介 など

☆ 郡山地域をはじめ県内の中小企業・個人等が対象です。 ※開設時間:午前10時から午後4時まで。事前申し込みが必要です。 ※開設場所及び申込先:郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
☆ 相談は無料です。 ※「出前セミナー in 企業」を希望される企業については、開催日時等について調整が必要となりますので、事前にご相談ください。

平成26年度の
主な動き入居者審査委員会の
開催状況

1 新規入居者審査

第1回 平成26年5月2日(金)

○1件の申込みがあり、審査の結果、
1企業が入居。・支援室No.3 福島再生可能エネルギー(株)
(平成26年5月21日入居)

第2回 平成27年2月20日(金)

○1件の申込みがあり、審査の結果、
1企業が入居。・支援室No.10 水野 睦夫
(平成27年4月1日入居)

2 入居者延長審査

第1回 平成26年5月 2日(金)…(1企業の延長決定)・(株)メディファム

第2回 平成26年8月19日(火)…(4企業の延長決定)・エコポンド環境工学リサーチ(株)

・PSP(株) ・(株)ニチオン

・(株)テレジャパン

第3回 平成27年2月20日(金)…(2企業の延長決定)・(株)あおい・オクト産業(株)

INC入居企業一覧表

新事業創出育成事業

入居企業名	業種等	本社	入居日	主な研究開発テーマ	会社PR
エコポンド環境工学 リサーチ株式会社	除染技術の高度化 研究開発・施工業	郡山市	平成24年 9月 3日 平成26年 3月14日	「イーコン・ポリイオン水」を利用した除染工法の開発、及び湖沼・ため池の放射能汚染底土の回収装置の開発	除染技術の高度化に取り組み、新しい開発技術を持って更に貢献したい。
福島再生可能エネルギー 株式会社	再生可能エネルギー プラント設計・製造を 中心とした環境工 ネルギー事業	郡山市	平成26年 5月21日	①小水力発電設備の研究開発及び発電事業 ②太陽光発電事業 ③地域未利用バイオマスを利用した半炭化の研究開発、半炭化装置の製造販売	再生可能エネルギー関連事業の研究を推進、技術開発を促進します。
株式会社あおい	総合建設業／土木	須賀川市	平成26年 4月1日	地下水を利用した融雪舗装の開発	熱交換機を採用した融雪工法の開発を実施しています。
PSP株式会社	臨床医療用ソフトウェアの研究開発・販売	東京都港区	平成24年 9月3日	「遠隔画像診断支援コンピューターシステム」の開発・改良	臨床医療用ソフトウェアの研究開発・販売に努めています。
株式会社ニチオン	医療機器製造・販売	千葉県船橋市	平成23年 8月22日 (平成27年 5月29日卒業)	①身体に優しい手術器具の開発 ②新しい医用洗浄機の開発	社会的効用をもたらす最先端医療機器・革新的医用設備機器等の研究開発を行っています。
オクト産業株式会社	工業デザイン・製品企画・設計	東京都板橋区	平成24年 3月1日	過酷環境対応の蓄電システム筐体の開発	リチウムイオン電池のデザインから、設計・試作・製造及び評価試験まで、ものづくりに必要な全ての部門を保有した新製品開発に取り組んでいます。
株式会社テレジャパン	情報通信業	郡山市	平成24年 9月10日	メッシュセンサーネットワークの研究開発	インターネットには繋がっていない、IP網でのサービス提供に努めています。
バサルトアウス株式会社	バサルト連続繊維の製造販売	郡山市	平成27年 6月1日	バサルト繊維補強コンクリートの研究	バサルト繊維の特性を活かした良質の製品を作り出し、規格化を目指します。
水野 睦夫	建設業 (建設資材の販売と施工)	滋賀県栗東市	平成27年 4月1日	コンクリート等のカビ・バクテリア繁殖防止、劣化防止	環境に配慮した、安価で施工しやすい商品の研究開発に取り組んでいます。
SAISEI合同会社	製造及び販売 (バイオマスによるメタン分解装置の開発)	郡山市	平成27年 6月2日	メタン分解装置の商品化に向けての開発	バイオマス等自然エネルギー源の開発に関する分散型電源システムのプロデュース及び販売を目指しています。

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 活動報告

(IT高度利用推進事業、情報化人材育成・研修事業、産学連携IT人材育成事業)

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会は、(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と連携し、「ICT」をキーワードに圏域企業や個人等を対象に会員を募り、情報交換や情報収集の場を設け、相互研鑽や連携を深めるとともに、圏域におけるICT化社会への対応を支援するための事業に取り組んでいます。

平成26年度は以下の事業を実施しました。

1 セミナー

<情報化人材育成・研修事業>

Webサイト、メルマガ、ブログ、パンフレット…「伝わるコンテンツの編集&ライティングレシビ」

コンテンツ制作の重要性は高まるばかりです。そこで、誰でも文才や経験に頼らず「設計思考」に基づいて一定以上の品質の文章を書くための理論を学ぶセミナーを開催しました。

講師は、コピーライターで、宣伝会議などでも講演の多い森田氏。参加者アンケートでも大変評価が高いワークショップとなりました。



開催日 平成26年4月12日(土)13:30~17:00

会場 郡山地域テクノポリスものづくり
インキュベーションセンター 会議室

参加者 13名

講師 株式会社Rockaku
代表取締役 森田 哲生 氏

2 ワークショップ

<産学連携IT人材育成事業>

Scratch day 2014 in KORIYAMA 「わくわく! プログミングワークショップ」

世界各地で行われるイベント「Scratch Day」に合わせて開催。

前年度同様、小中学生を対象に、名刺サイズのコンピューターRaspberry Pi(ラズベリーパイ)上で動く、Scratch(スクラッチ)という子供向けのビジュアルプログラミング環境を使って「ネコから逃げろ」というゲームを作りました。



開催日 平成26年5月17日(土)13:00~15:00

会場 国際アート&デザイン専門学校

参加者 親子6組12名

講師 株式会社マユックス
代表 佐藤 充 氏

協力 NPO法人CANVAS(Raspberry Pi 提供)

3 セミナー

<IT高度利用推進事業>

~人にやさしいUIとは~「セブン銀行ATM 操作画面リニューアルのすべて」

若者からお年寄りまで、迷わずに操作できるATMの「使いやすさ」は、あらゆるUI(ユーザーインターフェース)デザインのヒントになります。

そこで、前年にセブン銀行ATM操作画面の大幅リニューアルを担当したお二人を講師に迎え、ユーザー目線のUI開発について伺いました。



開催日 平成26年6月21日(土)14:00~16:00

会場 ホテルハマツ 3階 中央の間

参加者 58名

講師 セブン銀行ATMソリューション部
部長 松橋 正明 氏 / 水村 洋一 氏

後援 郡山市 / 郡山高度情報化システム研究会

4 セミナー

<IT高度利用推進事業>

クリエイターのための「知らないと怖い、法律の話」

契約に関するトラブルは未然に防ぎたいものです。そこで、インターネットに詳しい郡山市の行政書士に講師を依頼し、制作や契約において自分の権利を守り、また相手の権利を侵害しないために欠かせない法律の知識を、分かりやすく解説するセミナーを開催しました。



開催日 平成26年7月5日(土) 14:30~17:00

会場 郡山地域テクノポリスものづくり
インキュベーションセンター 会議室

参加者 11名

講師 市川行政書士事務所 市川 誇生 氏

5 ワークショップ

<産学連携IT人材育成事業>

わくわく! プログミングワークショップ【中級編】

これまでのワークショップに参加経験のある小中学生を主な対象とし、中級編を開催。

午前中は初めて参加する7名が初級編を、午後から経験者13名が合流し、合わせて20名の子供たちがそれぞれ自由にゲーム作りに取り組みました。

講師のほか、プログラミング経験者の社会人、専門学校生にもサポートとして参加いただきました。



開催日 平成26年8月6日(水) 10:00~16:00

会場 日本大学工学部 情報研究棟 演習室

参加者 小学4年~中学1年の児童・生徒20名

講師 株式会社マユックス
代表 佐藤 充 氏

協力 NPO法人CANVAS(Raspberry Pi 提供)

6 セミナー

<IT高度利用推進事業>

「地方におけるIT / Webの使いどころ」～クライアントの目的を成就せよ～

ITやWebのコアスキルを活かして、いかに自身のビジネスに幅や広がりを持たせるか。またそれを活かしてクライアントのビジネスにどう貢献していけばよいのか。地方ならではのIT / Webの使いどころをテーマに、セミナーを開催しました。「シビックプライド」も大切な視点です。



開催日 平成26年9月27日(土) 14:30～16:30

会場 ホテルハマトウ 2階 メイフェアー

参加者 23名

講師 株式会社 四国新聞社
メディア室メディア事業部 英誠一朗氏

後援 福島民報社 / 福島民友新聞社 / 郡山市

7 スマートフォンアプリ開発イベント

<情報化人材育成・研修事業>

「Connect 2014 in Koriyama」

「人と人をつなぎ、笑顔をつくる」をテーマに、プログラマー、デザイナー、社会人、大学生、専門学校生がチームとなって、観光・商店街活性化のアイデアを出し合い、AndroidやiPhone用アプリを2日間で開発するイベント(ハッカソン)を開催しました。

審査の結果、郡山市長賞を受賞したアプリ「かくとくとんと一緒に」(スタンプラリー)は、その後も商店街と協力しながらチームメンバーにより継続開発が行われ、商店街のイベントで「ガイレンジャー・スタンプラリー」として活用されました。



開催日 平成26年12月6日(土) 10:00～18:00

7日(日) 10:00～18:00

会場 郡山商工会議所 5階 5-1会議室

参加者 17名

運営 株式会社こさえる福島

表彰 郡山市長賞:「かくとくとんと一緒に」
郡山高度情報化システム研究会賞:「あそびkoriyama」
Connect 2014賞:「笑店街(しょうてんがい)」
審査員奨励賞:「友達Trigger」共催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構 / ぶくしまICT
利活用推進協議会 / 郡山高度情報化システム研究会後援 郡山市 / 郡山商工会議所 / (公財)郡山コンベンションビュー
ロー / 特定非営利活動法人まざっせKORIYAMA / 日本大学
工学部 / 国際アート&デザイン専門学校 / WiZ 専門学校
国際情報工科大学校 / 福島民報社 / 福島民友新聞社

8 セミナー

<IT高度利用推進事業>

「10倍ラクするIllustrator仕事術」全都道府県縦断セミナーツアー in 福島

印刷、デザインなど、Illustrator(デザイン用ソフト)を仕事で使う人に向け、「直しに強い」「効率的な」制作のため、すぐに仕事に活かせるプロのノウハウを学ぶセミナーを開催。

参加者からは「まさに悩んでいた内容だったので大変参考になった」など、大変好評でした。



開催日 平成27年3月6日(金) 19:00～20:30

会場 郡山商工会議所 5階 5-1会議室

参加者 38名

講師 株式会社 スイッチ
代表取締役 鷹野 雅弘氏共催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
郡山高度情報化システム研究会

後援 福島県広告業協会

IT交流プラザ事業 圏域のICT化推進のため、各種支援事業を行いました

協力

- ① Koriyama City Wi-Fi事業
主催: 郡山商工会議所 / 郡山高度情報化システム研究会

後援

- ① ゲーム開発イベント「FUSE」
主催: 国際ゲーム開発者協会 東北
- ② KJ法ワークショップ
主催: Onyonfly.tv
- ③ エフサミ(Fukushima IT Summit 2014)
主催: ITコミュニティ「エフスタ!!!」
- ④ グリーンパワー・ハッカソン Vol.1
主催: NPO法人ビーグッドカフェ
Code for Fukushima
Race for Resilience実行委員会

共催

- ① 「本音が聞きたい! 福島県のクリエイティブの底力とシノマが生まれる営業力」セミナー
日時: 10月29日(水)
主催: 福島県広告業協会 / 福島県デザイン振興会
- ② 産学官連携フォーラム
日時: 11月27日(木)
主催: 日本大学工学部 / (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
- ③ 経営安定セミナー
「アマゾンに負けぬ! ~価格転嫁を怖がるな! 目覚めよ、店舗の持つ「強み」~」
日時: 12月9日(火)
主催: 郡山商工会議所
- ④ インターネット時代の新しい働き方「ネットでプチ起業セミナー」
日時: 1月19日(月)
主催: 独立行政法人中小企業基盤整備機構
- ⑤ 2015年新春地域情報化セミナー「ちばレボ」
市民と行政をつなぐ新たなコミュニケーションツール
日時: 2月13日(金)
主催: 郡山高度情報化システム研究会 / 郡山商工会議所

アドホック研究会

研究会活動報告

会員相互の技術、情報などの交流と幅広い研究を通して、新技術、新商品、新事業の開発と新市場の開拓を促進するとともに、生産・販売面での相互協力を促進し、会員企業の成長発展と地域産業の振興に貢献することを目的に活動しています。会員は郡山地域テクノポリス圏域内(郡山市、須賀川市、三春町、鏡石町、玉川村、石川町)などの企業経営者・役員です。

アドホック研究会(郡山)

会員数 14名(平成26年度末現在)

会長 根本 幸二(株)アクア工房 代表取締役社長)

平成26年度 事業内容

4月定期総会

5月例会 講演 演題:「産業の集積・創出に向けた郡山市の取組みについて」

講師:郡山市産業観光部産業創出課
産業創出係長 結城 弘勝 氏

6月例会 7月以降の例会テーマの検討、情報交換会

7月例会 視察研修

- ・福島空港メガソーラー(福島空港敷地内)
- ・再生可能エネルギー利用次世代型農業施設(岩瀬牧場敷地内)

8月例会 講演 演題:「被災地域産業の早期復興を地域産学官連携スタイル『福島掘切川モデル』の確立を目指した取組み」

講師:東北大学大学院工学研究科
教授 堀切川一男 氏

会員企業訪問:(株)鋼屋

9月例会 10月以降の例会テーマの検討、情報交換会

10月例会 視察研修

- ・会津地域ものづくり企業展示交流会
- ・福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター
- ・北関東グリーンランド及び周辺施設
(平成26年度 第2回 再生可能エネルギー・環境共生推進研究会視察研修に参加)

11月例会 海外視察研修(タイ:11月13日~17日)

- ・SUS(株)Thailand Lamphum Co.,Ltd
- ・Lamphum Plastpack Co.,Ltd ほか
※須賀川方部アドホック研究会と合同開催

12月例会 1月以降の例会テーマの検討、情報交換会

1月例会 新春企業懇談会(須賀川との合同交流会)

2月例会 3月例会及び総会について、情報交換会

3月例会 次年度事業計画等の検討、情報交換会



7月例会
視察研修(福島空港にて)



7月例会
視察研修(岩瀬牧場にて)



8月例会
講演会(東北大 堀切川教授)



8月例会
堀切川教授企業訪問(株)鋼屋にて)

須賀川方部アドホック研究会

会員数 23名(平成26年度末現在)

会長 栗原敏郎(紅食(株) 代表取締役)

平成26年度 事業内容

4月定期総会

5月例会 平成26年度 事業計画(月別テーマ)の検討

6月例会 テーブルスピーチ

テーマ:震災被災地における建設業界の動向と
インキュベーションセンターでの取り組みについて

講師:(株)あおい 代表取締役 菊地 大介 氏

7月例会 視察研修:茨城県つくば市

- (独)産業技術総合研究所
- (独)宇宙航空研究開発機構 ほか

8月例会 視察研修:鏡石町 岩瀬牧場内
再生可能エネルギー利用次世代型農業施設

9月例会 視察研修:会津若松市

富士通(株)会津若松Akisaiやさい工場

10月例会 講演 演題:「再生可能エネルギー事業固定価格

買取制度の現状と今後について」

講師:東北電力(株) 須賀川営業所
所長 鈴木一夫 氏

11月例会 海外視察研修(タイ:11月13日~17日)

- ・SUS(株)Thiland Lamphum Co.,Ltd
- ・Lamphum Plastpack Co.,Ltd ほか
※アドホック研究会(郡山)と合同開催

12月例会 海外視察研修報告会

1月例会 新春企業懇談会(郡山との合同交流会)

2月例会 須賀川市企業間ネットワークセミナー2015への参加
講演会

テーマ:ぶくしまから宇宙へ「はやぶさ2」衝突装置(インパクター)の開発

講師:日本工機(株) 白河製造所 品質保証部長 藤垣雄一 氏

3月例会 次年度事業計画策定意見交換会



6月例会
新規会員企業テーブルスピーチ



7月例会
視察研修(JAXAにて)



8月例会 視察研修
(岩瀬牧場内の再生可能エネルギー利用次世代型農業施設にて)



9月例会 視察研修
(富士通(株)会津若松Akisaiやさい工場にて)

平成26年度 各研究会活動状況報告

研究会活動報告

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、産学官連携による研究開発体制の構築を目的に各種研究会活動を支援するとともに、大学等との連携により、技術シーズの紹介・提案、企業ニーズの大学等での検証、シーズとニーズのマッチングによる具体的な産学共同研究開発案件の掘り起こしなどを行っています。現在、分野別に「再生可能エネルギー・環境共生推進研究会」・「医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」・「機能性材料・製造プロセス研究会」の3つの研究会が活動しています。

以下、これら研究会の活動状況を紹介します。



再生可能エネルギー・環境共生推進研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同で主催する研究会です。同大学の環境保全・共生共同研究センターと連携しています。再生可能エネルギーや環境をテーマとした研究シーズを地域の産業界と融合させ新事業創出により地域力を高めることを目的としています。主な研究テーマは「大気、水質、土壌などの自然環境の保全・修復」、「省エネルギーやクリーンエネルギー」、「廃棄物の処理・リサイクルや未利用資源の活用」、「環境に関する影響評価・分析」、「環境関連装置・環境に調和した製品の開発」などです。

平成26年度 第1回 再生可能エネルギー・環境共生推進研究会

期日:平成26年7月10日(木) 場所:日本大学工学部 50周年記念館3階 大講堂 参加:100名

コーディネーター 日本大学工学部土木工学科
教授 長林久夫 氏

テーマ 2 ふくしま再生のためのウォータージェット技術の可能性 —除染・廃炉処理への応用—
日本大学工学部 機械工学科 教授 清水誠二 氏

テーマ 2 地域に密着したバイオマスガスステーションと新しい農業への事業化
クリーン・エネルギー・ネットワークLLP 代表理事 増尾一 氏

テーマ 3 グリーン・テクノロジーによる地域活性と持続可能な社会の実現に向けて
福島再生可能エネルギー株式会社 代表取締役社長 岡田素行 氏

『再生可能エネルギー・環境共生推進から見た今後の地域づくり—福島再生に向けてのコア技術を利用した大学・企業の展開—』をテーマに、大学側と産業界よりそれぞれ特色ある技術を生かした地域再生に向けた取り組みと、それに伴う新しい技術展開などについて紹介し、復旧・復興と今後の地域づくりに向けた方向性を参加者の皆さんと探りました。



第1回 研究会の様子



第1回 研究会(質疑応答)

平成26年度 第2回 再生可能エネルギー・環境共生推進研究会 現地視察研修会

期日:平成26年10月23日(木) 参加:17名(企業12社)

視察先:栃木県足利市 株式会社ファインテック 北関東グリーンプラント / 関東建設工業株式会社 イズムソーラーパーク

『エコロジーに配慮した環境創造都市づくり』をテーマに、国の支援を受けて開発した、食品(加工)残渣等(コーヒー滓)を原材料として利用している、バイオマス直接ガス化クリーン発電事業を行っている北関東グリーンプラント及び近隣の関連施設などの現地視察研修会を実施しました。



第2回 研究会(現地視察研修会)



第2回 研究会(現地視察研修会)



第2回 研究会(現地視察研修会)



医療・福祉機器等関連新事業創出研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同で主催する研究会です。今後市場規模が拡大すると考えられる、医療福祉機器分野における新事業創出を目的としています。主な研究テーマは「医療や福祉の現場ニーズに関する懇談会」「医学・工学・産業界連携フォーラム」「先進企業の事例発表」「先進地および先進企業の視察」などです。

平成26年度 第1回 医療・福祉機器等関連新事業創出研究会

期日:平成26年7月24日(木) 場所:日本大学工学部 次世代工学技術研究センター 参加:60名

第1部	大田区の医工連携事業について	講師:公益財団法人大田区産業振興協会 医工連携支援室 医工連携担当アシスタントリーダー 多田見 茂氏
	大田区町工場の医工連携45年の歩み	講師:有限会社安久工機 代表取締役社長 田中 隆氏
第2部	原州医療機器産業クラスターの紹介	講師:財団法人原州医療機器テクノバレー 国際協力担当 徐 廷赫氏

第一部では、『医工連携とものづくり』をテーマに、先進地である東京都大田区の医工連携の取組み事例等についてセミナーを、第二部では韓国原州医療機器産業クラスターについて紹介しました。



多田見氏の講演風景



田中社長の講演風景



徐氏の講演風景

平成26年度 第2回 医療・福祉機器等関連新事業創出研究会

期日:平成26年12月17日(水) 場所:郡山商工会議所 6階ホール 参加:50名

講演	演題1: 日本が取り組むべき医療機器開発の在り方	講師:医療機器技術情報協会 代表 川端 隆司氏
	演題2: ものづくり企業 異業種から医療機器産業への参入事例	講師:株式会社東鋼 代表取締役社長 寺島 誠人氏



会場風景

今回の研究会では、医療機器関連産業へ新規参入を目指す企業の皆様のために、医療機器ビジネスに詳しい 医療機器技術情報協会の川端代表と、現在、医療機器関連分野でご活躍されている株式会社東鋼 寺島社長のお二人をお迎えし、ご講演いただきました。

講演では、まず川端代表が「日本が取り組むべき医療機器の在り方」と題して、医療機器産業の現状及び医療機器ビジネス成功のポイント等を具体的に解説していただきました。続いて寺島社長からは、「ものづくり企業 異業種から医療機器産業への参入事例」と題して、同社の医療機器産業へ参入した経緯等について、体験を踏まえてわかりやすくご紹介いただき、参加した方々も熱心に聴講されておりました。



講演会風景



川端代表の講演風景



寺島社長の講演風景



機能性材料・製造プロセス研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同で主催する研究会です。「新しい材料や製造技術」、「現行の材料や製造技術の改善」などをテーマとし、地域の材料系企業への技術情報の発信や各種技術交流会等を開催しています。本年度は再生可能エネルギー(温泉熱・地中熱・地熱)に関する講演会を実施しました。

平成26年度 機能性材料・製造プロセス研究会

期日:平成26年7月30日(水) 場所:日本大学工学部 50周年記念館3階 AV講義室 参加:50名

コーディネータ 日本大学工学部生命応用化学科 教授 西出 利一 氏

テーマ 諏訪市での温泉熱・地中熱の利用に向けて

1 長野県 諏訪市 市民部生活環境課
環境保全自然エネルギー推進係長 榎尾 政行 氏

諏訪市における温泉熱・地中熱の取り組みについて、現状や今後の課題について講演いただきました。



コーディネータ挨拶

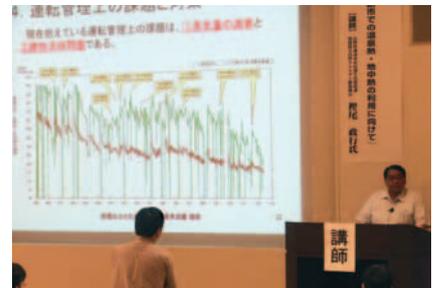
テーマ 柳津西山地域での地熱開発の取組みについて

2 奥会津地熱株式会社
西山事業所長 阿部 泰行 氏

現在、取り組まれている研究開発事業や実証実験の結果等、具体的な事例を挙げながら、講演いただきました。



榎尾講師の講演風景



阿部講師の講演風景

コラム
COLUMN
IM

技術コーディネータから

平成27年度から、それまでの技術コーディネータ2名に、新たな2名を加えて4名の体制となりました。改めて4名の技術コーディネータについて本コラムで紹介します。

インキュベーションマネージャー
兼 技術コーディネータ
佐藤 彰



東京の医科大学付属心臓血管圧研究所で約8年、医用工学を学びながら体外循環技術の研究や人工心肺装置等の医療機器開発にこそし、それらの開発成果をもって隣国への国際技術協力に約3年従事してきました。

その後は政府開発援助[ODA]に参画し、政府機関(JICA・JBIC)や国際機関(WB、ADB、PAHO、UNICEF、旧ソ連非核化協力委員会等)のOfficial Development ConsultantやJICA Expertとして約35年に亘り、総合病院/医療研究施設の建設事業や医療機材整備を含む保健医療分野の開発と貧困対策を含む環境改善など社会基盤整備事業の推進に特化し、50カ国にのぼる発展途上国や新興国で、政府の無償/有償資金協力を適用したProject(発掘型Project形成調査、基本/実施設計調査、Projectの管理運営/維持管理及び技術協力/人材育成事業)を推進してきました。

新たな世界秩序の中で地域社会がどう安寧に発展していくか熟考し乍ら、ビジネスインキュベーションという難しいMissionに邁進していきたいと思ひます。皆様のご指導とご協力を宜しくお願い致します。

技術コーディネータ
佐藤 正弘



はじめまして。本年度より技術コーディネータの仲間入りしました。

初めての機会ですので、技術コーディネータとしてのPRをさせていただきます。

ものづくりでのチョットした聞きたいことに対応いたします。

- ①電気製品の民生用分野・産業用分野でのチョットと聞きたいこと
雑多(照明、白物家電、空調・システム、AV、監視カメラ・システム 他)な経験で対応。
- ②製品化工程での開発・設計・営業・サービスでのチョットと聞きたいこと
官公庁、企業、一般消費者への展開で、経験したことで対応。
- ③若い技術者が悩んでいる技術面でチョットと聞きたいこと
レガシーな技術分野ですが、聞けなくなった基本技術の経験で対応。

技術コーディネータ
兼サブマネージャー
池浦 清一



現在、福島県再生可能エネルギー次世代技術開発事業に、連携企業(アライアンス形成会議のコア企業3社)と日本大学工学部とともに取り組んでいます。

テーマは、再生可能エネルギー利用次世代型農業施設開発です。開発技術の目標とする出口は農業生産者の利用となりますが、この事業に携わっているメンバーの多くは、これまで農業分野とは縁がありませんでした。未知の領域、無知の領域がある中で、日本大学工学部の先生の支援を得て、異業種の企業メンバーが、各々の保有技術を活用しながら、復興に対する強い思いで取り組んでいます。

科学の進歩が今の繁栄の源泉になっています。そこで生まれたことが、新しい産業になっています。事業継続していく上では、一つのことを追究する一方で、強みをいかして他分野へ目を向けることも必要なことのように思ひます。

科学と産業技術の連携を構築することも技術コーディネータの役割と考えています。

技術コーディネータ
吉田 裕二



今年度より技術コーディネータの業務に就くことになりました。これまで経験してきた技術知識を、圏内企業との“物作り拠点の形成”達成に微力ながらお役に立つよう努めていきたいと思ひます。

そんな立場で最近のニュースを見ていて最も身近で興味を持ったことは、東京電力福島第一原発事故の為に一時全村避難した村で、復興事業の一環として村の農産物を原料にした“発泡ビール”の生産を、県内醸造企業数社の協力下で開発され、今夏より販売開始となる事例でした。

地域産業の振興を技術的に補助するコーディネータ従事者にとって、こうした震災後の地域の“元気を取り戻す事業”に技術的支援が出来るなら大変素晴らしい事と思ひつつ、取敢えずは新発売のビールを飲むことで協力支援をしていきたいと思ひます。

リニューアルする27年度研究会

研究開発・事業化コーディネーター事業

先に紹介した3つの研究会は、27年度からコーディネーターが一新し、テーマを「サステナブル地域づくりフォーラム」「健康医療福祉産業創生フォーラム」「イノベーションテクノロジーフォーラム」として生まれ変わります。本誌では、3つのフォーラムの概要とコーディネーターの方々を紹介します。

なお、詳しい内容などは決まり次第、ちらしやホームページなどでお知らせします。

サステナブル地域づくりフォーラム

地域住民の暮らしを支える社会インフラは、高度経済成長期に集中整備された道路や橋、上下水道施設、学校や庁舎等の老朽化が深刻化しています。また、中山間地では限界集落や災害時の孤立といった問題が顕在化することが予想されます。

このような背景のもと、このフォーラムでは、産学官が密接に連携しながら地域住民とともに、地域の強みや再生可能エネルギーを生かした持続可能で自立した地域づくりを進めることを目的としています。



コーディネーター

日本大学工学部土木工学科
教授 岩城 一郎

主な研究分野

専門はコンクリート工学、社会基盤メンテナンス工学。
主な研究テーマは、コンクリート構造物の耐久性向上、橋梁をはじめとする社会インフラの長寿命化に関する研究など。

フォーラムに対する意気込み

地域力を生かし、産学官民の協働により、福島にしかできない地域づくりを進め、国内外に発信していきたいと思えます。

健康医療福祉産業創生フォーラム

旧研究会では医療・福祉分野がテーマでしたが、このフォーラムでは、今後とも市場規模が拡大すると考えられる、健康・医療・福祉・介護分野にテーマを広げ、「新しい医療関連産業の創出・研究開発の推進」を目指し、平成27年度よりリスタートします。



コーディネーター

次世代工学技術研究センター長
医学部・脳神経外科(兼任教授)
日本大学工学部電気電子工学科
教授 酒谷 薫

主な研究分野

生体医療工学／脳神経外科臨床

フォーラムに対する意気込み

医療工学を通じて福島県の復興に貢献できればと願っています。

イノベーションテクノロジーフォーラム

新しく設置する『イノベーションテクノロジーフォーラム(旧 機能性材料・製造プロセス研究会)』は、震災後のふくしまを牽引する「新しい産業の創出」や「テクノポリス圏域を中心とした企業の技術力向上」を目指し、「国内外の最新技術」や「国内外のトレンド」等、圏域企業に有益な最新情報の提供と新製品・新技術開発を促進させることを目的とします。



コーディネーター

工学研究所次長
日本大学工学部機械工学科
教授 柿崎 隆夫

主な研究分野

機械工学(システム、ダイナミクス、ロボティクス)、再生可能エネルギー利用システム、ファクトリーオートメーション(FA)、サステナブル機械システム、デジタルヒューマン、3D行動シミュレーション、避難工学、情報機器など。

フォーラムに対する意気込み

今日、学術や技術の領域は相互乗り入れが進み、機械、電気及び情報工学といった単純な分類だけでは独創的な開発や事業化には不十分となっています。本フォーラムではそうした垣根を取り除き、いま知りたい技術や発想を、地域の企業さんとともに開拓し、導入していける場にしたいと考えています。

平成27年度 各種助成事業募集のお知らせ

研究開発・事業化コーディネート事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、テクノポリス圏域内企業や企業グループ(産学連携を含む)等の研究開発や起業化の取組みを支援するため、各種助成事業を設けています。

- 1 F/S支援事業**

研究開発や新事業創出等の成功率を上げるために、開発に着手する前段のフィージビリティスタディ(実現可能性・起業化可能性の調査検討=F/S)を行う場合に経費の一部(助成対象経費の2/3以内で100万円を限度)を助成します。
- 2 研究開発助成事業**

新技術または新製品の開発、生産工程の合理化または製品の付加価値化、これらに関する技術の高度化に関する研究開発を行う企業、共同研究グループに対して、研究開発に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で300万円を限度)を助成します。
- 3 地域技術起業化助成事業**

技術革新の進展に即応した技術を製品化・商品化するため、その事業に向けて必要な商品開発、情報収集、市場開拓等の事業を行う企業や共同研究グループに対して起業化に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で500万円を限度)を助成します。
- 4 債務保証事業**

新技術、新製品などの研究開発を行うため、優秀な技術力、製品開発力がありながら資金調達力不足などの理由で、研究開発が促進できない企業のために、研究開発に要する資金の金融機関からの借入に際し、無担保で2,000万円まで債務を保証します。
- 5 新技術・新製品市場開拓支援事業**

新技術、新製品の新規市場開拓や販路拡大につなげることを目的に行う、海外の産業見本市等への出展に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で50万円を限度)を助成します。

平成26年度の助成事業対象企業は以下のとおりです

平成26年度
助成対象企業

研究開発助成事業

三宝製薬株式会社 福島工場 白河市・戦略的アライアンス形成会議会員

大腸がん自己検査キットの開発

事業内容:大腸内に常在する細菌フゾバクテリウム属が、大腸がんの病変部位において多数検出されたという研究結果をもとに、フゾバクテリウム属に特異的に結びつく抗体を利用し、市販の妊娠検査キットと同様の簡易的な自己検査キット30セット程度を作成する。

事業実施期間:平成26年8月から1年間

NITI-ON ニチオン 郡山新工場開所

当財団ものづくりインキュベーションセンターに入居する医療機器製造・販売のニチオンは、郡山中央工業団地に新工場「テクニカルデベロップメントセンター」を開設し、4月10日に開所式が行われました。福島県立医科大学と共同開発したパワーアシスト(空気圧式人工筋)を搭載する内視鏡手術用鉗子を、部品製造から組立てまで一貫して行う生産拠点となります。

新工場は、敷地面積1,466㎡、二階建て、延床面積359㎡で、県の「福島医療・福祉機器開発・事業化事業費補助金」を受けて整備されました。



新工場外観



新工場1階



テープカット



本田宏志社長

ふくしま復興・再生可能エネルギー産業フェア2014

REIFふくしま2014

開催日 平成26年12月3日(水)4日(木) **主催** 福島県、公益財団法人福島県産業振興センター
場所 ビッグパレットふくしま **共催** 復興庁、外務省、文部科学省、農林水産省 等
参加 6,080名



ふくしま復興 再生可能エネルギー産業フェア2014 (開会式)

このフェアは、原子力に依存しない安全・安心な社会を創るため福島県を再生可能エネルギーの先進地とすることを目的に、新たな産業の創出、関連産業の集積・育成や、関連産業でビジネスに取り組まれる企業・団体の皆様に技術・情報の収集、商談・交流の場を提供するものとして開催されました。当機構も展示ブースを設け、当機構の事業等について来場者に紹介しました。

イベント内容

再生可能エネルギー技術セミナー

「未来を創る!地域を変える!ふくしま発イノベーション」

●地球イノベーション戦略支援プログラムの紹介

(公財)福島県産業振興センター技術支援部

地域連携コーディネータ 富田 康男氏 他

経営者・技術者向け講習会

●水素エネルギー、再生可能エネルギーの新時代

(株)産業タイムズ社 代表取締役社長 泉谷 渉氏

FREA「再エネ」セミナー「普及加速のためのチャレンジ」

●水素が拓く未来のエネルギー社会

ノルウェー エネルギー技術研究所 主席研究員 ウレブルグ・オイスティン博士氏 他

再生可能エネルギー導入促進セミナー

●「ガス屋が電気を売る時代～地元企業だからできる再エネ推進モデルとは～」

(株)アポロガス 専務取締役 相良 元章氏

浮体式洋上ウインドファーム実証研究推進セミナー

●世界初の洋上ウインドファームへの挑戦

東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授 石原 孟氏

国際経済交流セミナー「第1部」

●ドイツの「エネルギーヴェンデ(エネルギー転換)」と

NRW州におけるエネルギーエージェンシーNRWの役割

エネルギーエージェンシーNRW 代表 フランク・ミヒャエル・パウマン博士氏 他

国際経済交流セミナー「第2部」

●「デンマーク再生可能エネルギーの現状及び風力・波力・ハウジング関連企業の紹介」

駐日デンマーク王国大使館 首席商務官 上川 敬三氏 他

出展者交流会/取引商談会



ふくしま復興 再生可能エネルギー産業フェア2014 (機構展示ブース)



ふくしま復興 再生可能エネルギー産業フェア2014 (県知事挨拶)

メディカルクリエーションふくしま2014

開催日 平成26年10月29日(水)～30日(木) **主催** メディカルクリエーションふくしま2014実行委員会
場所 ビッグパレットふくしま **共催** (一社)日本医療機器学会/(公財)医療機器センター
参加 約3,500名

この展示会は、医療機器分野への新規参入を目指す企業、大学・研究機関などが、得意とする技術や研究成果の展示を行い、医療機器メーカー等の研究開発部門・製造/生産管理者・エンジニア・購買スタッフ・企業幹部の方とマッチングを図る場として平成17年より開催されているもので、今年で10年目を迎え「10年の歩みと未来への架け橋」をテーマに開催されました。

今回の展示会は、国内外より218企業・団体が出展し、過去最大規模の展示会となりました。

当財団でも、かねてから産業交流を推進している韓国江原道原州市の「原州医療機器テクノバレー」と「原州医療機器産業クラスター企業」のブースを設け、日韓の技術交流を図りました。

また、イベントとして各種セミナーが開催されたほか、出展作品については「メディカルクリエーション大賞」ほかを設け、優秀作品が表彰されました。



開会式テープカット

セミナー内容

特別企画

- 医療機器産業の現状と福島県医療機器開発・安全性評価センター(仮称)の役割

海外展開セミナー

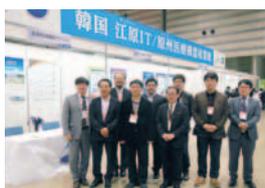
- ドイツ・NRW州企業の取組みとヨーロッパ市場参入へのヒント

最新技術セミナー

- 3Dナビゲーションを用いた外科手術支援～医工融合の視点から～

人材育成セミナー

- 災害医療の実情～石巻圏医療における東日本大震災への対応と次への備え～
- 学生等向け展示品ハンズオンツアー



韓国クラスターブース風景



日韓ブース佐藤知事挨拶

こおりやま全市元気応援産業フェア2014 ～夢商い～

開催日 平成26年10月4日(土)～5日(日) **主催** 郡山商工会議所・郡山地区商工会広域協議会
場所 ビッグパレットふくしま **共催** 郡山市・(公財)郡山地域テクノポリス推進機構
 郡山地域テクノポリス推進協議会

市内外から製造業や小売業、大学など約110の企業・団体が出展し、食品や工業製品の展示販売に加え、さまざまなイベントが開催され、多くの来場者でにぎわいました。

テクノのブースでは、インキュベーションセンター入居企業だった神田産業(株)製造の段ボール製簡易防音室『だんぼっち』を展示し大変好評でした。



開会式

イベント内容

- 世界ベンチ・イス創作コンテスト 作品展示・表彰式
- 郡山北工ロボットデモンストレーション
- 今泉女子専門学校ファッションショー
- せせらぎ小町コンサート
- ちびっこベリーダンスショー
- 安積中学校合唱発表
- 抽選コーナー
- こおりやま特選 お歳暮市 等々



「だんぼっち」コーナー



テクノブース

平成26年度 理事会等の開催報告

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構

平成26年4月1日～平成27年3月31日

理事会

- 第1回** ○日時 平成26年6月10日(火)
○場所 インキュベーションセンター
○内容 平成25年度事業報告
及び決算 ほか
- 第2回** ○日時 平成26年6月24日(火)
○場所 インキュベーションセンター
○内容 理事長の選定
常務理事の選定及び
事務局長の承認 ほか
- 第3回** ○日時 平成27年3月26日(木)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 平成26年度事業報告
及び補正予算
平成27年度事業計画
及び当初予算
一時借入れに伴う借入限度額の設定
中期ビジョン
利益相反取引に係る承認
及び報告
減価償却引当資産に関する規程
ほか

監査会

- 日時 平成26年5月30日(金)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 平成25年度事業及び決算

評議員会

- 第1回** ○日時 平成26年5月9日(金)
○場所 決議の省略の方法による開催
○内容 補充評議員1名、補充理事1名の選任
一時借入れに伴う借入限度額の設定 ほか
- 第2回** ○日時 平成26年6月24日(火)
(定時) ○場所 インキュベーションセンター
○内容 平成25年度事業報告及び決算
任期満了に伴う評議員の選任
任期満了に伴う理事・監事の選任
ほか
- 第3回** ○日時 平成26年7月29日(火)
○場所 決議の省略の方法による開催
○内容 補充評議員1名
並びに補充監事1名の選任

郡山地域
ニューメディア・コミュニティ
総会・運営委員会の開催報告

協議会総会

- 日時 平成26年4月23日(水)
○場所 ビッグパレットふくしま3階
小会議室2
○内容 ・委員の選任について
・役員(副会長)の選出について
・平成25年度事業報告
及び決算について
・平成26年度事業計画(案)
及び予算(案)について

運営委員会

- 第1回 運営委員会**
○日時 平成26年5月29日(木)
○場所 インキュベーションセンター
○内容 ・平成26年度
事業計画について
- 第2回 運営委員会**
○日時 平成26年12月4日(木)
○場所 テクノポリス推進機構
会議室
○内容 ・平成26年度事業について
・平成27年度
事業方針・事業計画(案)について
- 第3回 運営委員会**
○日時 平成27年3月19日(木)
○場所 インキュベーションセンター
○内容 ・平成26年度事業報告
及び決算(見込み)について
・会則の一部変更について
・平成27年度事業計画(案)
及び予算(案)について

平成27年度の主な事業・イベント

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構

会議関係

- 【5月】 ・第1回評議員会(5/14)
・平成26年度決算監査
- 【6月】 ・第1回理事会(6/4)
・定時評議員会(6/23)
・郡山地域産業支援機関連絡会議(6/30)
- 【3月】 ・第2回理事会

アライアンス・研究会

- 【5月】 ・アライアンス役員会(5/20)
【6月】 ・アライアンス総会(6/10)
【7月】 ・第1回サステナブル地域づくり
フォーラム(7/9)
・第1回イノベーションテクノロジー
フォーラム
・第1回健康医療福祉産業創生
フォーラム
- 【10月】 ・第2回サステナブル地域づくり
フォーラム
- 【11月】 ・第2回イノベーションテクノロジー
フォーラム
- 【12月】 ・第2回健康医療福祉産業創生
フォーラム
- 【1月】 ・アライアンス全体会

事業

- 【5月】 ・助成事業第1回公募(5/1～5/29)
・インキュベーションセンター入居者審査委員会(5/1)
- 【7月】 ・ちびっこマイスターズ・カレッジ
・技術等審査委員会
- 【8月】 ・マイスターズ・カレッジ受講生募集
・インキュベーションセンター入居者審査委員会
- 【9月】 ・サイエンスツアー
・こおりやま産業博(9/19～20)
・GME S2015 江原医療機器展示会出展
- 【10月】 ・助成事業第2回公募(10/1～11/30)
・サイエンスツアー
・マイスターズ・カレッジ2015(10月～11月)
・再生可能エネルギー産業フェア2015
(10/28～29)
- 【11月】 ・(仮称)ふくしまの未来を開くロボットフェア(11/3)
・メティカルクリエーションふくしま2015
(11/11～12)
・サイエンスツアー
・第16回産学官連携フォーラム
- 【12月】 ・インキュベーションセンター入居企業成果発表会
・サイエンスツアー
- 【1月】 ・平成28年テクノポリス新春講演会
・技術等審査委員会
- 【2月】 ・インキュベーションセンター入居者審査委員会

平成27年度の
主な行事・イベント

- 【4月】 総会
【5月】 運営委員会
【6月】 セミナー
「オープンデータ推進セミナー」
【7月】 ワークショップ「図解力を身につける」
Connect 2015 in Koriyama アイデアソン
【8月】 ワークショップ
「わくわく! プログラミング・ワークショップ」
ワークショップ
「グラフィックレコーディング」
- 【9月】 運営委員会
【10月】 セミナー
「CSS Nite in FUKUSHIMA」
【11月】 セミナー「業務改善アプリを作る」
産学官連携フォーラム
ワークショップ
「わくわく! プログラミング・ワークショップ」
- 【12月】 Connect 2015 in Koriyama 発表会
会員交流会
【1月】 運営委員会

※開催内容・時期は、変更することもあります

役員・職員等の紹介

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 役員

【任期：平成26年6月24日～平成28年6月定時評議員会】 平成27年4月1日現在(順不同・敬称略)

理事長	丹治 一郎	郡山地域テクノポリス推進協議会会長 郡山商工会議所会頭
常務理事	齋藤 隆	郡山商工会議所常務理事
理事	福井 邦顕	日本全業工業(株)代表取締役会長
理事	渋谷 重二	郡山地区商工会広域協議会会長 富久山町商工会長
理事	岩谷 幸雄	郡山地域テクノポリス推進協議会副会長 玉川村商工会長
理事	出村 克宣	郡山大学工学部長
理事	小沢 喜仁	福島大学副学長・地域連携担当
理事	小貫 正信	鏡石町産業課長
理事	吉田 純治	石川町産業振興課長
理事	永林 正典	玉川村産業振興課長
監事	古川 光雄	(株)大東銀行執行役員本店営業部長
監事	佐藤 哲郎	三春町産業課長

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 評議員

【任期：平成26年6月24日～平成30年6月定時評議員会】 平成27年5月14日現在(順不同・敬称略)

評議員	内藤 清吾	郡山商工会議所副会頭
評議員	作田 秀二	郡山商工会議所工業部会長
評議員	林 明博	須賀川商工会議所工業部会長
評議員	柿崎 隆夫	郡山大学工学部工学研究所次長
評議員	竹内 誠司	(株)東邦銀行常務取締役郡山営業部長
評議員	遠藤 定則	東北電力(株)郡山営業所長
評議員	長門 昭夫	(公財)福島県産業振興センター理事長
評議員	安達 和久	福島県商工労働部 再生可能エネルギー産業推進監兼次長
評議員	村上 清喜	須賀川市産業部長
評議員	浜津 佳秀	郡山市産業観光部次長

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会委員

平成27年4月24日現在(順不同・敬称略)

会長	丹治 一郎	(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長
副会長	出村 克宣	郡山大学工学部長
副会長	鈴木 正博	郡山商工会議所 情報文化部会長
委員	長谷部一雄	須賀川商工会議所 会頭
委員	渋谷 重二	郡山地区商工会広域協議会会長
委員	岩谷 幸雄	玉川村商工会長
委員	阿部 晃造	郡山商工会議所 工業委員長
委員	白内 秀樹	(株)NTT東日本-東北 福島支店 郡山エリア支店長
委員	酒井 良信	(株)エフコム 代表取締役社長
委員	水上 哲夫	(有)ばすわーど 代表取締役
委員	松崎 健一	福島県企画調整部情報政策課長
委員	林 千鶴雄	福島県商工労働部産業創出課長
委員	大河原 薫	福島県ハイテクプラザ副所長
委員	阿部 哲郎	郡山市政策開発部長
委員	村上 清喜	須賀川市産業部長
委員	柳沼 英夫	鏡石町総務課長
委員	吉田 純治	石川町産業振興課長
委員	永林 正典	玉川村産業振興課長
監事	佐藤 和雄	郡山市産業観光部長
監事	鈴木 秀明	郡山商工会議所開発事業部長

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 運営委員会委員

平成27年5月13日現在(順不同・敬称略)

委員長	杉山 安洋	郡山大学工学部情報工学科 教授
委員	水上 哲夫	(有)ばすわーど 代表取締役
委員	水野 和彦	(有)ミズノ製作所 代表取締役
委員	斎藤 正弘	(株)エフコム 副本部長
委員	藤田 和浩	(株)福島情報処理センター 郡山システム部長
委員	新藤 純也	(株)コンピュータシステムハウス マネージャー
委員	根本 卓也	福島県商工労働部産業創出課主任主査
委員	植木 一雄	郡山市政策開発部ソーシャルメディア推進課長
委員	石堂 伸二	須賀川市産業部商工労政課長
委員	柳沼 英夫	鏡石町総務課長
委員	吉田 純治	石川町産業振興課長
委員	永林 正典	玉川村産業振興課長

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構・事務局

平成27年4月1日現在

常務理事兼事務局長	齋藤 隆	郡山商工会議所出向
事務局次長兼総務部長	安藤 徹	福島県OB
企画管理課長	猪俣 秀行	郡山市派遣
技術振興課長	遠藤 文康	須賀川市派遣
新事業支援課長	鈴木 一哉	大東銀行出向
インキュベーションマネージャー兼技術コーディネーター	佐藤 彰	
技術コーディネーター兼サブマネージャー	池浦 清一	
管理員兼サブマネージャー	佐藤 喜幸	
非常勤技術コーディネーター	佐藤 正弘	
非常勤技術コーディネーター	吉田 裕二	
情報支援総務担当		
(郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会)	村上 瑞恵	
本部総務担当	鈴木 琴子	
インキュベーションセンター総務担当	久保田江美	



ACCESS

- 福島空港から郡山駅まで(シャトルバスで約35分)
- 郡山駅から南へ3km(車で約10分、バスで約20分)
- 東北自動車道郡山南インターから東へ約6km(車で約10分)

お問い合わせ／ご相談はお気軽にご連絡ください

編集／発行 公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会



〒963-0115 福島県郡山市南二丁目52番地 ビッグバレットふくしま3階
 TEL.024-947-4400 / FAX.024-947-4475
 E-mail techno@nm.net6.or.jp / URL http://www.techno-media.net6.or.jp/
 【Facebookページ】https://www.facebook.com/technoandnmc
 【メールマガジン登録】http://www.techno-media.net6.or.jp/magazine/index.php



この印刷物は、FSC®認証紙と環境にやさしい植物油インキを使用しています。紙へリサイクル可。